

# 第4章

## 総合戦略編

### 第1節 総合戦略の枠組み

「人口ビジョン編」の「目指すべき札幌の将来」において示した基本方針である「人口減少の緩和」と「人口減少への適応」に基づいて「目指すべき将来の姿」を実現すべく、「人口減少緩和戦略」という大きな柱を中心に立てた上で、「人口減少適応プロジェクト」についても提示します。

▶ 「人口減少緩和戦略」では、「質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり」、「結婚・出産・子育てを支える環境づくり」により、豊かで安定した生活を形成するとともに、「若い世代へ向けたアプローチの強化」により、若者の地元定着等につなげていくため、3つの柱の元に様々な施策を幅広く提示しています。

▶ 数値目標は、「合計特殊出生率」と「20～29歳の道外への転出超過数」について「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」の目標値を踏まえて定めるとともに、「人口減少緩和戦略」の各項目ごとにKPIとSDGs<sup>※</sup>のゴールを示します。

▶ 「人口減少適応プロジェクト」では、人口減少局面の中でも市民の満足度・幸福度をより意識、重視をしていくため「市民が幸せになるための取組の強化」を、人手不足やサービス維持の問題に向き合い、解決・適応していくため、女性・高齢者・障がいのある方等の活躍やデジタル化の推進はもとより、「外国人材に選ばれる環境づくり」、「持続可能な都市の在り方の検討」を提示しています。

## 第1節 総合戦略の枠組み

### 人口減少緩和戦略

#### 質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり

- (1) 産業の基盤づくりと競争力の強化
- (2) 働きやすい環境づくりと人材育成・確保
- (3) 行きたくなる・暮らしたくなる魅力づくり

#### 結婚・出産・子育てを支える環境づくり

- (1) 子どもを育てる世代への切れ目のない支援
- (2) 子育てを支える地域社会の形成
- (3) 子どもが健やかに育つ環境の充実

#### 若い世代へ向けたアプローチの強化

- (1) 様々な出会いの創出
- (2) 若者に選ばれる札幌づくり

数値目標	現状値	目標値
合計特殊出生率	0.96 (令和5年(2023年))	1.35 (令和11年(2029年))
20～29歳の道外への転出超過数	2,468人(令和5年(2023年))	600人(令和11年(2029年))

### 人口減少適応プロジェクト

市民が幸せになるための取組の強化

外国人材に選ばれる環境づくり

持続可能な都市の在り方の検討

## 第2節 人口減少緩和戦略

### 1 質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり

#### (1) 産業の基盤づくりと競争力の強化

##### ① 次世代型産業を見据えた創業・開発支援と企業誘致

###### GX投資の推進

北海道の再生可能エネルギーのポテンシャルを最大限に活用し、世界中からGX投資を呼び込むため、特区を活用した規制改革等の推進やGX情報等の発信、英語ワンストップ相談窓口の開設など、GX産業の集積と金融機能の強化・集積に向けた取組を推進します。

###### 半導体関連産業の集積促進

半導体・デジタル関連企業や人材の集積促進を図るため、半導体設計企業や次世代半導体のユースケースを創出するAI企業等(スタートアップ\*を含む。)の立地促進に向けた取組やトップレベルの人材育成等を推進します。

###### イノベーション\*の創出

イノベーションの創出や生産性の向上につなげるため、新たな技術やアイデアで社会課題を解決するスタートアップによる行政オープンイノベーション等を実施します。

###### IT産業への支援

市内IT産業の競争力向上、市場拡大を実現するため、AI\*、XR\*などの成長分野を始めとする新たなビジネス展開を支援します。

###### 新たな企業の創業・立地

雇用創出や経済の活性化、産業基盤の強化を図るため、スタートアップ創出に向けた支援や積極的な企業誘致活動を通じて、企業の創業や立地等を促進します。

## 第2節 人口減少緩和戦略

### 1 質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり

#### (1) 産業の基盤づくりと競争力の強化

##### ② 地元企業のチャレンジを応援する競争力強化支援

###### 中小企業の支援

地域経済をけん引する企業を創出するための集中的な支援を行うほか、新製品・新技術の開発やデザイン経営\*の導入促進等による、市内企業の付加価値向上に向けた支援を行います。また、新展示場整備により産業交流・販路拡大の機会の増進を促すとともに、大谷地流通業務団地を核とした流通機能を強化します。

###### 市内企業のSDGsの推進

企業活動を通じてSDGsに取り組む企業の「見える化」により、市内企業におけるSDGs経営を推進します。

###### 国内外への販路拡大支援

市内食関連事業者の国内外への販路拡大のため、官民連携による商談機会の創出や海外進出に取り組む企業へのニーズに応じた支援等を行います。

## 第2節 人口減少緩和戦略

### 1 質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり

#### (2)働きやすい環境づくりと人材育成・確保

##### ①ワーク・ライフ・バランスの促進

###### 働きやすいまち札幌

札幌市が「働きやすいまち」となるため、経済界、労働界、札幌市の3者からなる協議会により、人手不足の解消や、労働者の雇用環境の向上への対応方針を検討するなど、新たな仕組みの創設に取り組みます。

###### ワークライフバランスに取り組む企業への支援

男女が共に活躍し仕事と生活の調和を図っていくため、テレワークの導入補助等による働き方改革や人材確保・定着を推進するとともに、仕事と子育てを両立できるよう、育児休業取得者が生じた際の助成を行うなど、働きやすい職場環境整備のための支援を行います。

###### 女性活躍の推進

不安や悩みがあり就職活動に踏み切れない子育て中の女性や結婚・出産後も働き続けることを希望する女性に対し、個別相談やセミナー、在宅ワーク向けスキル講座等を通じて就労を支援します。

## 第2節 人口減少緩和戦略

### 1 質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり

#### (2)働きやすい環境づくりと人材育成・確保

##### ②さっぽろ圏を支える多様な人材の確保

###### 道外からのUIJターンの促進

UIJターン希望者と求人登録企業のマッチングを図る常設の拠点における職業紹介や移住支援金の受付を通じ、UIJターン希望者の精神的・経済的不安を軽減するとともに、大学との更なる連携を図り、札幌市へのUIJターンを支援します。また、首都圏において札幌の魅力を伝えるシティプロモーションを実施し、札幌ファンの拡大等につなげるため、企業・人材等とのネットワークの構築・強化を進めます。

###### さっぽろ圏内企業への就職促進

若年層の地元定着を促進するため、学生時代に貸与型奨学金を利用した方が、札幌市が認定する企業等へ就職し、さっぽろ圏内に居住した場合、奨学金返還の支援を行います。

###### 人材確保に向けた魅力発信

建設やものづくり産業など人手不足業界における人材確保のため、当該業界のイメージアップや魅力発信を行うための取組を進めるとともに、人手不足職種を対象とした求人情報発信補助金の件数を拡充し、効果的な支援を図ります。また、持続可能な公共交通ネットワークの構築に向け、市内路線バス事業者との連携・支援を行いながら、運転手の確保に努めます。

###### 広域的な連携強化・関係人口<sup>\*</sup>の創出

さっぽろ連携中枢都市圏<sup>\*</sup>の更なる活性化を図るため、圏域内への人材流入促進等に関する取組、関係人口創出などさっぽろ連携中枢都市圏の住民と道内市町村をつなぐまちづくり活動の促進等の取組を行います。

## 第2節 人口減少緩和戦略

### 1 質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり

#### (2)働きやすい環境づくりと人材育成・確保

##### ③働きたい人と企業を支援する人材育成・マッチング支援

###### 様々な分野の人材育成

様々な分野における人手不足等に対応するため、IT人材の育成の推進やIT人材の確保の支援、外国人材や国際ビジネス人材の就職の支援を行うとともに、観光事業者のスキルアップや産学連携による人材育成を実施します。また、職業訓練を通じた技能者の育成を支援します。

###### 地元企業とのマッチング

地元企業への就職促進のため、就業サポートセンターを中核に据えた就労支援施設を全区に展開し、職業紹介、スキルアップ講座、職場体験等の各種サービスを提供します。また、座学研修と職場研修を通じて、さっぽろ圏内企業への正社員としての就職又は正社員への転換の可能性のある就職を支援します。

###### 高齢者の活躍推進

高齢者の就業支援及び市内企業の人材確保につなげるため、高齢者雇用の意識醸成を図る企業向けセミナー及び体験付き仕事説明会の開催を通じて、マッチングを促進します。

###### 障がい者の活躍推進

関係機関と連携して障がいのある方や企業等からの一般就労に関する相談に応じるとともに、障がいのある方、障害福祉サービス事業所及び民間企業を対象としたセミナーや各種講座等を実施し、障がい者雇用を促進します。

### 第2節 人口減少緩和戦略

#### 1 質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり

##### (3)行きたくなる・暮らしたくなる魅力づくり

###### ①札幌ならではの観光資源の魅力アップによる観光の推進

###### 持続可能な観光推進

「持続可能な観光」の推進に向け、観光関連事業者への普及啓発や市民理解の促進に取り組むとともに、取組の発信により観光地としてのブランド力を高めます。また、観光振興施策を計画的・戦略的に推進するため、計画策定や財源確保、推進体制の強化等の観光マネジメント機能の強化に取り組めます。

###### 国内外からの誘客推進

観光閑散期にインバウンドを含めた国内外からの観光需要創出が期待される大規模イベントに対して効果的な支援を行うことで、誘致・開催を促します。また、道内市町村と連携し、北海道・札幌の魅力の発信や周遊促進の取組を展開します。

###### 観光資源の充実

札幌の観光資源の更なる魅力アップと集客を図るため、さっぽろオータムフェスト、さっぽろ雪まつりなどのイベント、定山渓地区のPR、円山動物園などの施設機能等を充実させていきます。

## 第2節 人口減少緩和戦略

### 1 質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり

#### (3)行きたくなる・暮らしたくなる魅力づくり

##### ①札幌ならではの観光資源の魅力アップによる観光の推進

#### MICE※誘致の強化

MICE誘致による高い経済効果の獲得とレガシー効果を生み出すため、開催効果の最大化に向けた取組などを行います。また、大規模な国際会議等を積極的に誘致するため、新MICE施設の整備や、その運営手法について検討していきます。

#### 雪と共存したまちの魅力向上

スノーリゾートとしてのブランド化に向けて市内スキー場の魅力向上など冬季観光コンテンツの充実に取り組みます。また、ウィンタースポーツの体験会開催や、観戦文化の醸成等を通じ、スポーツや身体を動かすことの楽しさに触れることのできる機会を提供します。

## 第2節 人口減少緩和戦略

### 1 質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり

#### (3)行きたくなる・暮らしたくなる魅力づくり

##### ②訪れる人・住む人にとって魅力あるまちの推進

###### 観光客の満足度向上

観光客の満足度向上及び再訪率増加のため、観光情報の発信・案内をはじめ、無料Wi-Fiの運用、観光案内サイン等の維持管理、観光バス対策、観光施設の魅力アップ等の受入環境整備を実施します。

###### 観光客の受入体制の充実

春節やさっぽろ雪まつりなど観光需要が増加する時期のオーバーツーリズムを未然防止・抑制するため、手ぶら観光の充実や交通利用の分散化、マナー啓発等の取組を実施します。また、宿泊施設のバリアフリー化推進のための改修に係る経費の補助や、旅行に不安を抱える方の需要喚起を図るための取組などを実施します。

###### スポーツイベントの誘致・スポーツ施設の活用促進

国際的スポーツイベントの誘致や、パラスポーツ、アクションスポーツ※大会等の誘致を目指します。また、多様化するニーズに対応し、誰もがスポーツを楽しめる環境をつくるため、老朽化したスポーツ施設の再整備や障がい者スポーツセンター整備に向けた検討を進めます。

###### 文化芸術活動の振興

優れた文化芸術に触れる機会を提供するため、パシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌や札幌国際芸術祭等を開催するとともに、文化芸術活動に広がりを持たせ、マンガ等を活用した新たなまちづくりの可能性を検討します。また、本市の実情をより的確に反映した文化芸術施策の実現を目指し、アーツカウンシル※の調査・研究を行います。

## 第2節 人口減少緩和戦略

### 1 質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり

#### (3)行きたくなる・暮らしたくなる魅力づくり

##### ②訪れる人・住む人にとって魅力あるまちの推進

###### 居心地が良く歩きたくなる空間形成等

居心地が良く歩きたくなり、多様な活動ができる・滞留したくなる空間の形成に向けて、都心・地域交流拠点・住宅地それぞれの特性を生かした空間の整備を進めるとともに、札幌らしい個性的で魅力的な景観の形成を効果的に推進します。

###### 商店街の活性化

商店街によるにぎわいづくりや集客力向上のための取組の支援、商店街の組織基盤の強化等を支援します。

###### みどり豊かな都心づくり

みどりがあふれ、魅力と活力に満ちた都心の形成のため、魅力あふれる公園づくりや都心のみどりづくりを推進します。

###### ICTを活用したまちづくり

データの収集・活用により、ICTを活用したまちづくりを進めるとともに、データの分析・可視化により、地域課題の解決、行政施策の効果検証、立案等を実現します。また、各区戸籍住民課関係窓口業務について、デジタル技術などを積極的に取り入れ、先進的な取組を実施します。

###### 魅力向上に資する地域づくり

地域が直面する少子高齢化や人口減少等に伴う課題に対応するため、若い世代をはじめとした様々な世代が住みたくなるまち、にぎわいにあふれ新たな交流が生まれるまちなどの実現に向けて、若い世代や子育て世代が住みやすい環境の整備、新たなにぎわいの創出や地域の魅力向上・魅力発信を進めていきます。

###### 交通ネットワークの充実

魅力と活力ある街の推進に向けて、滑走路延伸を含む丘珠空港の機能強化や新たな公共交通の運行開始に向けた取組、放射・環状等の骨格道路網の機能強化など、移動環境のさらなる充実・強化を図ります。

## 第2節 人口減少緩和戦略

### 1 質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり

#### (4)KPI

指標	現状値	目標値
PR活動等により立地した企業数(累計)	106社 (R5(2023)年度)	196社 (R11(2029)年度)
資金調達を行った道内スタートアップ数	19社 (R5(2023)年度)	55社 (R11(2029)年度)
食料品製造業の製造品出荷額	2,413億円 (R4(2022)年度)	2,840億円 (R11(2029)年度)
バイオ産業の売上高	1,158億円 (R5(2023)年度)	1,254億円 (R11(2029)年度)
市内IT産業の売上高	4,623億円 (R4(2022)年度)	6,400億円 (R11(2029)年度)
市内クリエイティブ産業の売上高	615,654百万 (R4(2022)年度)	677,643百万 (R11(2029)年度)
海外展開支援事業におけるコンサルティング支援のマッチング支援数(累計)	23件 (R5(2023)年度)	173件 (R11(2029)年度)
仕事と生活の調和がとれていると思う人の割合	39.6% (R5(2023)年度)	70.0% (R11(2029)年度)
札幌市ワーク・ライフ・バランスplus認証企業数	1,001社 (R5(2023)年度)	1,750社 (R11(2029)年度)
女性向け就労支援窓口の登録者のうち、就職活動を始めた人数(累計)	334人 (R5(2023)年度)	3,030人 (R11(2029)年度)
市内新規学卒者の道内就職割合	56.0% (R5(2023)年度)	65.0% (R11(2029)年度)
20～29歳の首都圏からの転入者数	3,812人 (R5(2023)年)	4,100人 (R11(2029)年)
人材を確保できていると回答した市内企業の割合	25.8% (R5(2023)年)	36.2% (R11(2029)年)
国際会議開催実績アジアパシフィック圏順位	27位 (R元(2019)年)	20位 (R11(2029)年)
札幌市内での総観光消費額	3,195億円 (R4(2022)年度)	8,465億円 (R11(2029)年度)
ウインタースポーツ実施率	18.9% (R4(2022)年度)	26.0% (R11(2029)年度)
主要文化芸術施設の利用者数	1,653,953人 (R5(2023)年度)	2,143,000人 (R11(2029)年度)
観光地としての総合的な満足度	83.9% (R5(2023)年度)	88.2% (R11(2029)年度)

#### (5)SDGs



## 第2節 人口減少緩和戦略

### 2 結婚・出産・子育てを支える環境づくり

#### (1) 子どもを生ま育てる世代への切れ目のない支援

##### ① 安心して結婚・出産・子育てができる支援体制の充実

###### 若者の出会いの場づくり

結婚を希望する若者等に対して、オンライン結婚支援センターの運営等により結婚に向けた支援を実施します。

###### 妊娠前の支援

不妊治療を行っている方の経済的負担を軽減するため、医療保険適用外により医療費が高額となる先進医療に要する費用の一部を助成します。

###### 産前・産後ケアの充実

安心して子どもを産み育てられるよう、妊娠期から出産・育児まで各段階に対応できる一貫性・整合性のある切れ目のない支援体制の強化を図ります。また、産後うつ予防や新生児への虐待予防等を図るため、出産後間もない時期の産婦に対し、健康診査の費用を助成するなど、必要な支援につなげます。

###### 子育てに関する不安の緩和

DV被害などにより不安を抱える母子や困難を抱える妊婦に対する支援体制強化のため、母子生活支援施設への職員配置の強化や、妊娠期から出産後までの継続した支援を実施します。

## 第2節 人口減少緩和戦略

### 2 結婚・出産・子育てを支える環境づくり

#### (1)子どもを生ま育てる世代への切れ目のない支援

##### ②子育て環境の整備・充実

###### 安全な保育環境の確保

多様化する保育ニーズに対応し安全な保育環境を確保するため、保育人材確保・就業継続等の取組を行うとともに、中高生等を対象とした広報活動を行い、保育職を目指す次世代の人材を増やします。また、熱中症リスクの高い子どもの熱中症事故防止のため、冷房設備が完備されていない公立保育所に冷房設備を設置します。

###### 多様な保育サービスの提供

全ての子育て家庭が就労要件に関わらず、生後6か月から満3歳未満の未就園児を時間単位で柔軟に通園することを可能にすることで、子どもの成長を応援するとともに、多様な働き方やライフスタイルに対応した支援を強化していきます。また、子育てと就労の両立を支援するため、子どもが病気の際、就労などで自宅での保育が困難な場合に、一時的に病児・病後児を保育する施設を拡大するとともに、利用者の利便性の向上を図ります。

###### 放課後の居場所の充実

安全で心地よい居場所となるよう、移動式エアコン設備など児童会館等の環境整備を図るとともに、インターネット(Wi-Fi)の整備により児童会館等で放課後に多様な手段で学習できる環境を整えます。また、放課後児童クラブを利用する共働き世帯等に対する家事負担軽減を目的とする昼食提供事業の充実を図ります。

## 第2節 人口減少緩和戦略

### 2 結婚・出産・子育てを支える環境づくり

#### (1)子どもを生き育てる世代への切れ目のない支援

##### ③子育て世帯の経済的負担の軽減

###### 子ども医療費助成の助成対象の拡大

子育て支援環境の充実を図るため、子ども医療費助成の助成対象を高校3年生まで拡大します。

###### 第2子以降の保育料無償化

保育料の負担を軽減するため、認可保育所等における第2子以降の保育料について、世帯年収・兄弟姉妹の年齢差に関わらず無償化します。

###### 子育てにかかる費用の負担軽減

全ての妊婦・子育て世帯が安心して出産・子育てできるよう、妊娠期から出産・子育てまでの一貫した支援を充実させるとともに、給付金の支給により経済的負担の軽減を図ります。

###### ひとり親家庭等の経済的負担の軽減

ひとり親家庭等に対する医療費の助成など、経済的負担の軽減を図ります。

### 第2節 人口減少緩和戦略

## 2 結婚・出産・子育てを支える環境づくり

### (2) 子育てを支える地域社会の形成

#### ① 子育て参加環境の充実

##### 働きやすいまち札幌(再掲)

札幌市が「働きやすいまち」となるため、経済界、労働界、札幌市の3者からなる協議会により、人手不足の解消や、労働者の雇用環境の向上への対応方針を検討するなど、新たな仕組みの創設に取り組みます。

##### ワークライフバランスに取り組む企業への支援(再掲)

男女が共に活躍し仕事と生活の調和を図っていくため、テレワークの導入補助等による働き方改革や人材確保・定着を推進するとともに、仕事と子育てを両立できるよう、育児休業取得者が生じた際の助成を行うなど、働きやすい職場環境整備のための支援を行います。

##### 女性活躍の推進(再掲)

不安や悩みがあり就職活動に踏み切れない子育て中の女性や結婚・出産後も働き続けることを希望する女性に対し、個別相談やセミナー、在宅ワーク向けスキル講座等を通じて就労を支援します。

## 第2節 人口減少緩和戦略

### 2 結婚・出産・子育てを支える環境づくり

#### (2) 子育てを支える地域社会の形成

##### ② 地域における子育ての推進

###### 孤育て<sup>\*</sup>を防ぐ地域の子育て支援

地域で子育て世帯を支えるため、拠点となる子育てサロンを実施し、安心して子育てができる環境を整えるとともに、そのようなサロンに來られない世帯に向けて、子育て経験者が家庭訪問することで育児ストレスの軽減等につなげます。また、さっぽろ子育て情報サイトやアプリの利便性向上を図り、子育て世帯が自分に合ったサービスを利用できるよう、積極的な情報発信等を行います。

###### 特別支援教育に係る相談体制の充実

発達の困りや不登校、日本語習得への困難さ等のある子どもの保護者からの相談や就学相談に係る業務に迅速かつ丁寧に対応できるように、特別支援教育に係る相談体制の充実に向けた取組を推進します。

###### 子育て支援施設の運営

子育て支援の充実のため、拠点となる区保育・子育て支援センターによる地域の子育て支援を推進します。

## 第2節 人口減少緩和戦略

### 2 結婚・出産・子育てを支える環境づくり

#### (3)子どもが健やかに育つ環境の充実

##### ①多様な学びを促す充実した教育環境の整備

###### 多様な学びの機会の充実

子どもが将来への夢を描けるよう、小学校高学年を対象として、働く大人、社会や職業に関わる様々な現場に直接触れることのできる企業訪問型の職業体験事業を実施します。また、課題探究的な学習を充実させ、子どもの学習への意欲や論理的思考力を高めます。

###### 子どもが学ぶ環境の充実

学校における教育活動の効果を更に高めるため、各校に有償ボランティアである学びのサポーターを配置し、特別な教育的支援を必要とする児童生徒が学校生活を送る上で必要な支援を充実させます。また、生活に困窮する世帯の子どもに対し、「貧困の連鎖」を防ぐため、座学ではない学習活動の強化も含めた学習習慣の定着を図り高校進学を実現するための学習支援等を行います。

###### 体を動かす機会の充実

子どもの体力・運動能力を向上させるため、子どもの運動・スポーツの機会の一層の充実を図ります。特に、冬季における運動機会の確保及び増進のため、子どもたちに対してスポーツや身体を動かすことの楽しさを体感できる機会を提供します。

###### プレーパークの推進

子どもの自主性・創造性・協調性を育むために、地域住民等が規制を極力排除した公園等において開催・運営する「プレーパーク」を推進します。

###### 1人1台端末の利活用の推進

GIGAスクール構想※にて整備された1人1台端末を活用した効果的な授業展開のため、ICT機器や教材の整備を推進します。

###### 小中一貫した教育の推進

義務教育学校における取組も活用して、「小中一貫した教育」の更なる推進を図ります。

## 第2節 人口減少緩和戦略

### 2 結婚・出産・子育てを支える環境づくり

#### (3)子どもが健やかに育つ環境の充実

##### ②子どもが安全・安心に過ごせる環境の充実

###### 子どもを支える環境の充実

子どもの心の診療についての関係機関によるネットワークの強化や児童精神科専用病床の設置を実施するとともに、医療的ケアを必要とする児童が健やかに成長でき、その家族が安心して子育てを行える環境を作るため、訪問看護の提供や、短期入所で受入れる体制を維持・改善します。

また、児童生徒が置かれた様々な環境への働きかけ等のため、専門的な知識や経験をもつ専門家であるスクールソーシャルワーカーを活用するとともに、社会的養護を利用している子どもを対象とした意見形成・表明支援を実施します。

今後の人口減少等の給食運営の課題を踏まえ、持続可能な給食提供の在り方を検討します。

地域全体で子どもたちを見守る環境を充実させ、安心して過ごせる地域の居場所づくりを推進するため、子ども食堂など子どもの居場所づくりの活動に対し支援します。

###### 子どもを守る体制の充実

心の専門家のスクールカウンセラーを全学校に配置し、学校の教育相談体制の充実を図ります。また、不登校やその心配のある子どもに対し、一人一人の状況に応じたきめ細かな支援をするため、相談支援パートナーの設置などにより、子どもの悩みや困りを早期に把握し適切に対処するとともに、子ども理解に関する教員研修や情報モラル教育の充実を図ります。

###### 経済的困難を抱えた子どもへの支援

技能習得を目的とした高等学校等に通う生活困窮世帯の学生又は生徒に対し、奨学金を支給するとともに、意欲や能力があるにも関わらず、経済的理由によって就学困難な学生又は生徒に、奨学金を支給します(いずれも返還義務なし)。

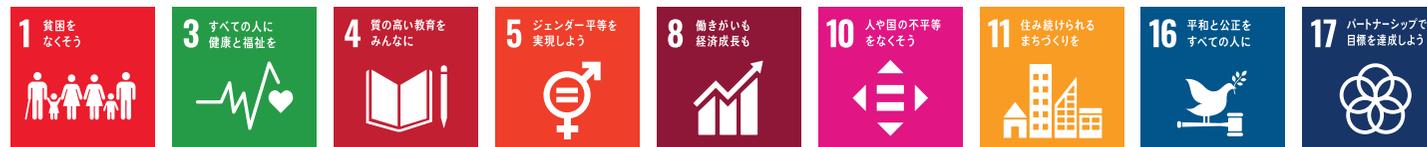
## 第2節 人口減少緩和戦略

### 2 結婚・出産・子育てを支える環境づくり

#### (4)KPI

指標	現状値	目標値
子どもが大切にされている社会だと思ふ人の割合	—	70.0% (R11 (2029) 年度)
18歳以下の子がいて、妊娠・出産や子育てについて相談相手や情報収集手段がある親の割合	76.3% (R5 (2023) 年度)	92.0% (R11 (2029) 年度)
子育てをしていて感じる「楽しさ」「大変さ」のうち、「楽しさのほうが多い」子育て世帯の割合	60.6% (R5 (2023) 年度)	70.0% (R11 (2029) 年度)
仕事と生活の調和がとれていると思ふ人の割合【再掲】	34.3% (R4 (2022) 年度)	70.0% (R11 (2029) 年度)
「父親と母親がともに子育ての担い手である」と答えた保護者の割合	52.6% (R5 (2023) 年度)	70.0% (R11 (2029) 年度)
自分が必要とされていると感じている子どもの割合	63.7% (R5 (2023) 年度)	80.0% (R11 (2029) 年度)
自分の目標をもって生活している子どもの割合	71.6% (R5 (2023) 年度)	80.0% (R11 (2029) 年度)
近所や地域とのつながりがある子どもの割合	57.0% (R5 (2023) 年度)	65.0% (R11 (2029) 年度)
先生や家族以外にも相談できる大人がいてと考えている子どもの割合	—	90.0% (R11 (2029) 年度)

#### (5)SDGs



### 第2節 人口減少緩和戦略

#### 3 若い世代へ向けたアプローチの強化

##### (1) 様々な出会いの創出

###### 大学との連携強化

大学が有する高度な知見や若者が集積するという特性を活用するため、大学を起点とした多様な主体との連携を促進するとともに、人口減少等の地域課題解決に向けた取組を推進します。

###### 若者の出会いの場づくり(再掲)

結婚を希望する若者等に対して、オンライン結婚支援センターの運営等により結婚に向けた支援を実施します。

###### 道内市町村とのつながりの創出

道内の地域活性化を図るため、札幌の都市機能の活用促進や、さっぽろ圏の住民が道内市町村に関心を持つきっかけを創出するなど、道内市町村をつなぐまちづくり活動の促進等の取組を行います。

###### 次世代の担い手の育成

次世代のまちづくり活動の担い手を育成するため、若者を対象に、世代に応じた取組により、まちづくり活動の大切さや必要性に気付く機会と、まちづくり活動への参加機会を拡大します。また、若年層に対して、ものづくり企業の魅力を発信するほか、小学校・中学校におけるキャリア教育を推進するため、民間企業等と連携し、様々な職業体験を実施します。

### 第2節 人口減少緩和戦略

#### 3 若い世代へ向けたアプローチの強化

##### (2)若者に選ばれる札幌づくり

###### 人口減少対策に資する官民連携の推進

民間提案の受付や情報提供・情報発信等を一元的に行う窓口の設置・運営等を通じ、道外を中心に若者を呼び込むなど人口減少対策に関する企画をはじめ地域・行政課題の解決に資する官民連携の取組を推進します。

###### 道外の若者を中心とした移住の促進

道外からの移住を促進するため、特に若者をターゲットとした移住情報を中心にポータルサイトの活用等により情報発信を充実させます。また、移住相談や地域の魅力発信の強化及び地域おこし協力隊<sup>\*</sup>を活用していきます。

###### 目指すべき将来の姿の共有

オール札幌で人口減少対策に取り組んでいくため、人口減少対策によって実現する、札幌の目指すべき将来の姿について、市民と共有するとともに、特に若者が具体的にイメージできるよう情報発信を行います。

###### 子育て等の魅力の発信

子育て等のイメージアップを図るため、子どもと触れ合う機会や子育て経験者と話す機会の確保など、子どもや子育ての良さ・喜びを幅広い世代で共有、共感できるような取組を推進していきます。

### 第2節 人口減少緩和戦略

#### 3 若い世代へ向けたアプローチの強化

##### (2)若者に選ばれる札幌づくり

###### ウェルネスの推進

市民の健康寿命延伸のため、健康意識の向上や健康行動の促進を図る取組を、産学官連携により効果的に実施するとともに、居心地が良く歩きたくなり、多様な活動ができる・滞留したくなる空間形成に向けた整備を進めます。

###### 困難を抱える若者等への支援

若者の孤立防止等を目的に、若者同士の交流や社会参加を促進するとともに、様々な悩みや困難を抱えた主に10代後半から20代の女性を対象に、支援を必要としている方とつながり、必要な支援を届けていきます。また、相談体制の強化など社会から孤立・孤独状態にある女性への支援を行い、孤立・孤独状態の解消を図ります。

###### まちづくり・ライフデザイン\*に関する意識の向上

まちづくりへの参画やまちへの愛着につなげることを目的に、高校生や大学生からまちづくりに関して提案をいただく取組を推進します。また、妊娠、出産、育児等に関する情報の普及などライフデザインに関する意識向上に向けた取組を推進します。

###### 札幌らしさが好きになる取組の充実

スキーをはじめとする冬季におけるスポーツや身体を動かすことの楽しさを体感できる機会を提供するとともに、札幌における文化芸術やさっぽろ雪まつりなどの特色あるイベントを充実させていきます。

## 第2節 人口減少緩和戦略

### 3 若い世代へ向けたアプローチの強化

#### (3)KPI

指標	現状値	目標値
市内にキャンパスを有する大学・短期大学が実施する札幌市と連携した地域課題解決につながる取組の件数(年間)	102件 (R4(2022)年度)	141件 (R11(2029)年度)
毎日が充実していて楽しいと思う若者の割合	69.2% (R6(2024)年度)	75.0% (R11(2029)年度)
官民連携窓口における取組成立案件のうち人口減少対策に資するものの数(累計)	—	10件 (R11(2029)年度)
地域おこし協力隊等による移住に関する相談対応件数	—	100件 (R11(2029)年度)
20代・30代の三大都市圏からの転入者数	8,251人 (R5(2023)年度)	10,000人 (R11(2029)年度)
20代・30代の心身ともに健康であると感じている(札幌Well-being指標の5段階評価)	—	3.5 (R11(2029)年度)
20代・30代の札幌市で生活していることに誇りを感じている(札幌Well-being指標の5段階評価)	—	3.5 (R11(2029)年度)
自分の目標をもって生活している子どもの割合(再掲)	71.6% (R5(2023)年度)	80.0% (R11(2029)年度)
近所や地域とのつながりがある子どもの割合(再掲)	57.0% (R5(2023)年度)	65.0% (R11(2029)年度)

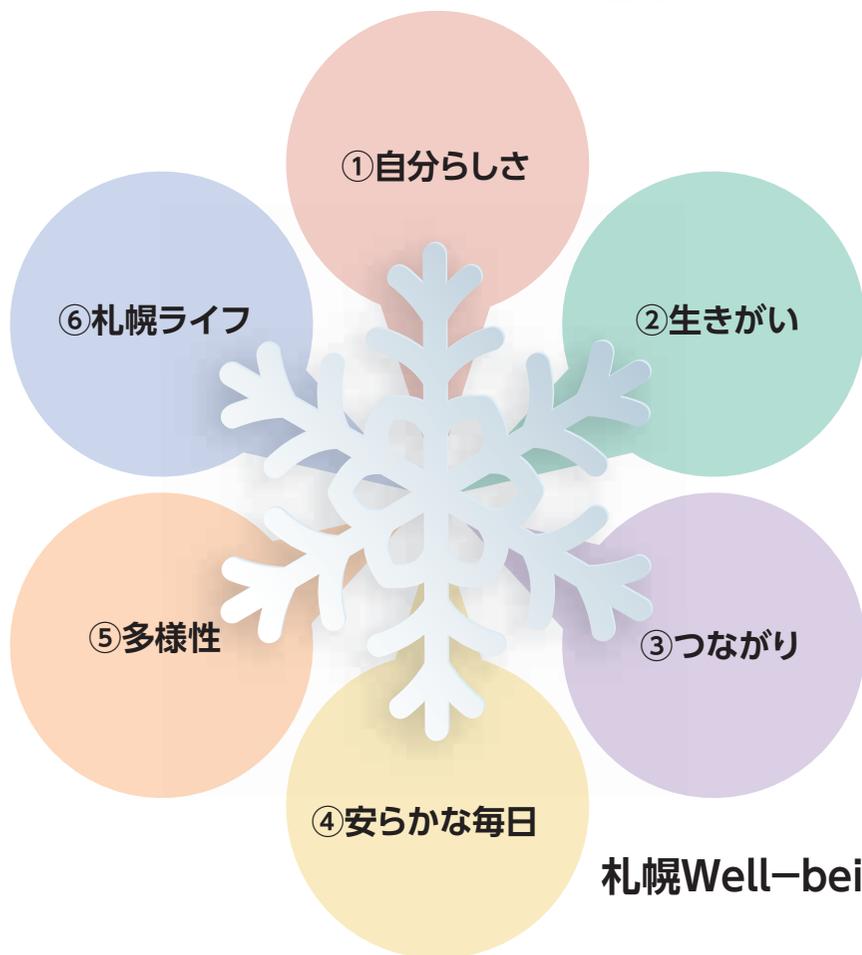
#### (4)SDGs



### 第3節 人口減少適応プロジェクト

#### 1 市民が幸せになるための取組の強化

札幌市独自の主観的指標「札幌Well-being指標」を設定し、市民の満足度、幸福度などを数値化・可視化した結果を積極的に発信していきます。Well-beingを向上させるためには、市民一人一人の行動と意識が必要となることから、様々な手法を用いて、Well-beingの向上を自分ごとにしてもらいます。行政としては、各施策の立案・改善等に生かしていくことを検討することで、市民がより幸せになることを目指します。



#### 市民へ発信

- 自身の幸せ、周囲の幸せを実感、振り返る
- Well-beingの向上を自分ごと

#### 行政で活用

各施策の立案・改善等に生かしていくことを検討

札幌Well-being指標:SWI (Sapporo Well-being Index)

### 第3節 人口減少適応プロジェクト

#### 1 市民が幸せになるための取組の強化 札幌Well-being指標(SWI)の構造

1 今(又は5年後)の人生の幸福度をハシゴを登っていくイメージで回答します。最上段が10で最高の人生を表し、最下段が0で最低の人生を表します。あなたはハシゴの何段目に立っていると思いますか？

2 次に、以下の設問について、「該当・どちらかといえば該当・どちらでもない・どちらかといえば該当しない・該当しない・回答できない」でお答えください。

①自分らしさ	②生きがい	③つながり	④安らかな毎日	⑤多様性	⑥札幌ライフ
日々の生活で自分に誇りをもって過ごしている。	日々の生活に希望をもっている。	家族が楽しく過ごせていると感じる。	自分がしたいことをするための、欲しいものを購入するための経済的な余裕がある。	結婚して子どもを持つことこそ、人生の幸福だと考える人が多い。☆	札幌市の市民文化やライフスタイルが、生活を豊かにしていると感じている。
今の生活を楽しんでいると思う。	住んでいる地域に希望を持っている。	困ったとき、苦しいとき、辛いときに夫婦・パートナーで助け合える。	日々の生活を送るのに必要な所得や資産がある。	結婚しないで独身で生きても肩身の狭い思いをすることはない。	都会的な遊び、ファッションなど、余暇を楽しむ充実した環境が、生活を豊かにしていると感じている。
自分のすることと他者がすることをあまり比較しない。	多くのことを達成してきたと感じる。	友人に思いやりの気持ちをもって接している。	心身ともに健康であると感じている。	他人のことはあまり干渉しない雰囲気がある。	豊富で新鮮な食材や美味しい料理が日常生活を豊かにしている。
失敗や不安な感情をあまり引きずらないと感じる。	何かしらの目標を持っている。	友人が楽しく過ごせていると感じる。	適切な食事、栄養がとれていると感じる。	LGBTQなどについて、繊細な気づかいができる人が多い。	買物、娯楽、医療、文化など生活利便性が高く生活しやすい。
	夢中になれる活動(仕事・スポーツ・趣味・ボランティアなど)がある。	職場・学校・趣味等のサークルなどの人たちと絆が強く、信頼できる関係にある。		若者の挑戦を応援する気風がある。	都市と自然の両方を満喫するライフスタイルを楽しむことができる。
	目標達成に向けて、成長できる機会がある。	職場・学校・趣味等のサークルなどでの人間関係は良好である。		市外出身の人や外国人も、地域住民の一員として受け入れられていると感じる。	ゆとりがある、優しい、過干渉しないなどの札幌市民の気質が心地よい。
		職場・学校・趣味等のサークルなどの人たちに感謝の気持ちをもっている。		身体などが不自由な人への理解が職場などの身近なところで進んでいると感じる。	雪と共存した生活を楽しむことができている。
		困ったとき、苦しいとき、辛いときに職場・学校・趣味等のサークルなどの人たちと助け合える。		多少の経済的な差が生じてても、経済成長の方が大切だと考える風潮がある。	四季それぞれと移ろいを楽しむことができる。
		居住する地域の人々に思いやりの気持ちをもって接している。		地域社会において息苦しさや窮屈さを感じる人が多い。☆	豊かな自然の中での活動を身近に楽しむことができている。
		居住する地域の人々との関係は良好である。			札幌市で生活していることに誇りを感じている。
		誰かと交流することが楽しい。			札幌市に観光や仕事で今より多くの外国人に訪れてもらえるようになることは、誇らしく思う。

※「☆」を付している設問は、該当する場合、多様性が低いと判定されます。

### 第3節 人口減少適応プロジェクト

#### 2 外国人材に選ばれる環境づくり

将来的な生産年齢人口の減少や人手不足へ対応するためには、人口減少緩和戦略における主に日本人を対象とした「女性活躍の推進」、「様々な分野の人材育成」、「高齢者の活躍推進」、「障がい者の活躍推進」などの「働きやすい環境づくりと人材育成・確保」の取組に加え、外国人材に選ばれる環境づくりも特に重要なものとなってきます。

##### 外国人に向けた情報発信

外国人にとって暮らしやすい街を目指し、外国人市民が必要とする生活情報や市政情報をわかりやすく発信するため、情報発信の多言語化に取り組みます。

##### 外国人雇用の拡大

市内中小企業における外国人雇用を促進するため、セミナーの実施、入国前から採用後までの伴走型支援、成功事例の発信、日本での就職を希望する国内外国人留学生が参加する合同企業説明会への参加を通じた市内企業と国内外国人留学生とのマッチングなどの企業への支援を行います。また、市内路線バス運転手の担い手確保に向けた外国人材の受入れに関する支援を行います。

##### 多文化共生<sup>※</sup>等の推進

国籍にかかわらず、誰もが安全安心に暮らせる共生社会の実現に向け、日本語習得支援や医療受診サポートなどの各種支援を通じて外国人市民の孤立防止と暮らしの不安解消を図るとともに、日本人も含めた市民全体の異文化理解を促進します。

##### 国際人材の育成

外国語教育における児童生徒のコミュニケーション能力の育成と国際理解教育の一層の充実を図るために、外国語指導助手(ALT)を効果的に配置します。

##### 外国人児童への支援

帰国児童生徒はもとより、日本語指導等が必要な外国人児童生徒が学校生活等に円滑に適応できるよう、指導協力者の派遣を行うなど、個々の状況に応じた支援を充実させます。また、国際教育プログラムを実践するインターナショナルスクールの誘致を検討します。

## 第3節 人口減少適応プロジェクト

### 3 持続可能な都市の在り方の検討

人口は一定程度減少し、税収減や担い手不足などの問題は避けられません。そのような中で、市民サービスを維持・向上させていくためには、様々な観点からの検討が必要となるとともに、検討の手法も様々なものが必要となります。一方で、人口減少によってもたらされるのは、問題だけではなく、環境負荷の低減や交通機関等の過密性の緩和などの側面もあります。

これらを踏まえ、持続可能な都市の在り方の構築に向け、将来のために長期的な検討を重ねていきます。

#### 検討に当たっての様々な観点

- 事業の廃止を含めた事業再編・再構築
- デジタル化の推進による生産性の向上
- サービス水準のレベルダウンや負担増加といった行政サービス水準・受益者負担の適正化
- 将来人口に見合った公共施設の規模適正化等
- 新たな法定外目的税の創設や税源涵養の取組等による増収 など

#### 検討に当たっての様々な手法

- 組織横断的な協働
- 多様な主体による連携・協働
- 研究機関等との共同研究

など

#### 長期的な検討項目

##### 【施策の在り方】

ごみ処理 除排雪 市営住宅  
公共交通ネットワーク  
高齢者施策 観光振興 など

##### 【施設の在り方】

老人福祉センター  
保養センター駒岡  
健康づくりセンター  
若者活動センター など

持続可能な都市の在り方の構築

## 第4節 様々な主体との連携

### 1 北海道・道内各市町村との連携

人口減少対策は、札幌市のみならず、北海道全体に共通する課題であり、北海道・道内各市町村の発展が、札幌市の発展にもつながるといふ考えの下、北海道や道内各市町村と問題認識を共有し、連携して取り組むことが求められます。

特に、道外への人口流出を防止する人口ダム機能を果たす札幌市は、北海道全体の人口減少対策に果たすべき役割は大きく、北海道との連携強化が重要です。そのため、「北海道と札幌市による人口減少問題対策協議会」における北海道との継続的な協議はもとより、地域おこし協力隊などに関する共同の取組といった「北海道と札幌市の連携による人口減少対策共同プログラム」による連携を引き続き強化していきます。

また、「さっぽろ連携中枢都市圏」の連携中枢都市として、首都圏で移住フェアを開催するなど連携市町村と共同した取組を通して、圏域はもとより、北海道全体の活性化に寄与するとともに、圏域からの人口流出を食い止めるなど、人口減少の緩和につなげていきます。

### 2 市民・企業・大学等との連携

人口減少対策においては、行政だけの取組だけでなく、市民、企業、大学、経済・労働団体等と連携した取組が求められます。

取組においては、市民一人一人の幸せやその周囲の人の幸せが重要であり、札幌Well-being指標を活用した取組などを通してWell-beingの向上を自分ごとにするところをはじめ、社会が一丸となり、札幌で暮らすことにより幸せを感じられるよう、オール札幌で人口減少対策に取り組んでいくことが必要です。

第3期  
北海道創生  
総合戦略

第3期  
さっぽろ未来  
創生プラン

北海道と札幌市の連携による  
人口減少対策共同プログラム  
(2025～2029)

I 働き方改革、女性活躍等の推進

II 首都圏等からの移住、Uターンや  
若者の地元定着の促進

III 札幌市が有する都市機能等の  
地域での活用促進